

赤十字国際ニュース

2020年 第25号 2020年6月24日
(通巻 第1382号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3437-0785

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

■ 日赤事業担当職員が語る！～新型コロナウイルス感染症に対応する各国赤十字社～（前編）

日本赤十字社（以下、日赤）では、世界各地に職員を派遣して、現地の赤十字社とともに人道支援活動を行っています。ところが、現在は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響で渡航が制限されており、ルワンダ、フィリピン、ネパール駐在職員も本年3月までに一時帰国し、日本から業務を続けています。

そこで、今週と来週の2回にわたり、各国の状況や赤十字の対応、今だから考える支援について、そして今遠く離れている同僚や友人への想い等を職員による対談形式でお届けします。
(日赤ウェブサイトには[ロングバージョン](#)を掲載しております。
[是非こちらもご一読ください!](#))

■ 各国の状況は？

(吉田拓さん、以下「吉田拓」) ムラホ（こんにちは）！ルワンダ赤十字社の[レジリエンス強化事業](#)を担当する吉田拓です。まずはアフリカ東部に位置するルワンダの状況をお伝えします。ルワンダは人口1,230万人ですが、現在、感染者数は460人¹を超え、ゆるやかに増加を続けています。国境を越えるトラック運転手などの感染が確認されていますが、国内で市中感染が広がっている状況ではありません。6月2日には国内の一部地域を除いて実質的に移動が自由になりました。政府の対応が国民の信頼を得ています。フィリピンの状況はいかがですか？



ルワンダ赤十字社は、市場に手洗い場を設置して感染予防をはかっている©RRCS



フィリピン赤十字社のPCR検査©PRCS

(吉田祐子さん、以下「吉田祐」) マガンダン・ウマーガ（こんにちは）！フィリピンで[保健医療支援事業](#)と[2013年の中部台風復興支援事業](#)を担当する吉田祐子です。1.06億人が暮らすフィリピン国内でも感染者は毎日増えており、国内の感染者の6～7割はマニラ首都圏が占めています。フィリピン政府は3月17日からルソン島全域に隔離措置を発出。第2波の襲来に注意しながらも経済を立て直すとの課題は他国同様にフィリピンでも関心が高いです。ネパールの状況はどうですか？

(五十嵐和代さん、以下「五十嵐」) ナマスデ（こんにちは）！ネパールで2015年4月に起こった[ネパール地震復興支援事業](#)と地域防災事業を担当している五十嵐和代です。人口2,809万人のネパールですが、感染者は5月～6月にはいって感染者が急激に増え、6月18日で感染者は7,848人を超えました。ネパールでは3月24日に全土でロックダウンが始まりましたが、6月14日にやっと一部で規制が緩和されました。国内の経済立て直しやスクリーニング検査強化などを求めるデモが各地で行われ、人々のフラストレーションがたまる

¹ 各国のコロナに関する数字は執筆時の情報であること。

てきている印象を持っています。

■いま、赤十字はどんなことをしているの・・・？

(吉田祐) 生活の基礎となるものに困ると感染予防どころではなくなりますよね。フィリピン赤十字社は、本社内に対策本部を立ち上げ、職員も総動員で対応を始めました。特に PCR 検査施設の設置と運営に力を入れており、国内検査数のおよそ 26% を占め、感染者の早期発見と対応に寄与しています。

(五十嵐) ネパール赤十字社は、1 月末に感染例が確認されて以来、全国 77 郡で活動を展開しています。具体的には正しい情報の普及、衛生用品などの物資配布、隔離施設での支援活動、感染者等の救急搬送などで多岐にわたる活動に従事

しています。感染の疑いがある住民を搬送する救急車運転手や救急隊員は、感染リスクが高い業務ですが、自治体からの搬送要請がはっきりなしにあり、隊員同士、励ましあって遂行しています。

(吉田拓) ルワンダでは、緊急救援が必要といった状況にはありません。ルワンダ赤十字社は平時から政府の補完的な役割を担っており、3 月から国内の移動が規制されている中でも、地方支部とボランティアが現金支給や物資の配布を行うほか、手合いを奨励しています。アフリカでは「お金持ちだけがかかる」「ニンニクを食べると感染しない」などの噂が流布しており、正しい情報を伝えることも優先度の高い活動です。ラジオ放送や啓発広報トラックの巡回（映像）などの啓発活動も行っています。



隔離施設で簡易トイレを設置するネパール赤十字社スタッフ©NRCS

■だいぶ遠い‘リモートアクセス’～どんなふうに仕事してますか？～

(五十嵐) 3 月末に帰国してから、皆さんどんな風に仕事をしていらっしゃいますか？私は、オンライン会議を通じてネパール赤十字社や国際赤十字の同僚との協議、定例会議で活動進捗確認、情報収集等を行っています。考えようによってはオンラインで連絡が取りあえるというのはすごいことなのですが、ネパールの日々の生活を感じ取ることが出来ず、心理的な距離を感じています。



ルワンダの事業を担当する吉田拓職員（左）はフィリピン赤十字社との業務経験ももつ©JRCS

(吉田拓) これまで当たり前だったことが、今は当たり前とは言えなくなっています。オンラインでつながっていても一緒に仕事を動かしていくという実感が持ちにくい、というのがリモートワークをする多くの方の心境ではないでしょうか？今は、常識を振り回さないようにして、相手の言うことを背景まで想像して読み取る、ということに特に気を付けています。課題は時差。ルワンダは日本と時差が 7 時間あり、一日の時間の使い方が変わりました。直接話す時に限っては‘密な’コミュニケーションを大切にしています。

(吉田祐) 私もリモート勤務の難しさは、やはり「スタッフの空気感」「どんな気持ちで仕事をしているか？」など、遠くから慮ることが出来ないことだと思います。あとは、フィリピン赤十字社は現在、社をあげて全国的に新型コロナ対応という緊急の活動にあたっているため、私が担当している長期コミュニティ支援活動を調整する難しさも感じています。

さて、次週 7 月 1 日発行予定の後編では、いつもの活動が出来ないジレンマや、試されている私たちのあり方、といったトピックでまだまだ語り合います。是非、また来週もご一読ください！

[\(今号のニュースをロングバージョンで読みたい方はこちらをクリック！\)](#)



新型コロナウイルス感染症
対応実施中

活動へのご理解よろしくお願ひします。